

なぜディクテーションか？ (Oct. 2010)

♣ 実証実験で効果が確認されている

1) フランスの作文教育がディクテーションを重視し、成果をあげていることを見た Rollo Brown は、日頃ディクテーションで鍛えているフランス人少年のグループ (11 歳から 12 歳の 28 名) に以下の文章を読み聞かせて、ディクテーションを行なった。

When General Washington was President of the United States, he had a secretary who was directed to him to come at a certain hour each day. More than once, he was late and excused himself by saying that his watch was wrong. "Then," said the President, "if your watch is to blame, either you must get another watch or I must get another secretary."

結果は、ひとつの間違いもなく書き取った者が 11 名 (39.2%)、一ヶ所だけ間違った者が 5 名で、6 割近くがほぼ問題なく書き取れた。また、10 ヶ所以上間違えた者は一人もいなかった。

Brown はアメリカで同年齢の少年少女 500 名を対象に同じ例文を使って実験をしてみたところ、完璧だったのはたった 11 名 (2.2%)。この実験では、多くの者が 20 ヶ所以上も間違っていた。

また、500 名の大学一年生を対象とした実験では、完璧だったのは 47 名 (9.4%) だった。

2) Rebecca Valette が南フロリダ大学でフランス語の履修者 6 クラスを対象にディクテーションの効果を測定したところ、ディクテーションの経験とフランス語のテスト結果との間に高い相関性を見いだした。

3) John Oller は UCLA での外国人留学生を対象とする入学試験を分析し、テスト中のディクテーション・テストの結果とテスト全体の成績とに高い相関性があることを確認し、さらにイランで TOEFL を受験した学生の成績を分析し、ディクテーションの能力を測ると、リスニング能力さらには言語運用能力についても予測がつくことを実証した。

4) Osamu Takeuchi が 207 名の大学一年生 (日本人) を対象に、13 週間にわたって週 2 回 45 分の授業で音声聞かせ穴埋めディクテーションを行なう訓練を行なったところ、リスニング能力の向上が認められた。

♣ 理論的根拠がある

✓ 英語学習成功者の 8 割がディクテーションで学習初期に一字たりともゆるがせにしない「深く聞く」練習をしているが、一定間隔でビートが打たれる音節の狭間に来る弱音節における音の変化を聴き取り、テキストと照らし合わせることで、聞こえる音と実際の語句との関係を経験することになり、この結果、リスニング能力が改善される。この過程を経て初めて次のステップである、「意味を聞く」練習に移行できる。

✓ ディクテーションは形式的なシンボルである言

葉に意味を付与するという作業の練習になる。

✓ 聴き取り、自分の知識と照らし合わせ、それを言葉として書き出すという能力が総動員される訓練である。

✓ 聴き取りのプロセスでは、聞き手は、ひとまとまりの言葉ごとに、自分の文法知識を動員して、「これはこういうことを言っているのではないか」という仮説を瞬時に立て、それがうまく行けば、何を言っているかがわかるし、仮説が機能しない場合は、新たな仮説を立てられる。「耳がいい」つまりリスニングの能力が高い人というのは結局、話し手の発言に見合う仮説を素早く立てられる人のことだ。

♣ その他のメリット

✓ 複数形や所有格あるいは三単現の -s を落としたり、過去分詞の -ed を落とすという典型的なミスを実感することができる。

✓ majority を majolity と書いてしまうといった、個人差のある「ありがちなミス」を個別に是正できる。

✓ ディクテーションをやっていないならば、She is a good cooker. という形を作り出していたかも知れない人に、She is a good cook. といった通りがよく、その意味で正しい言い方に触れる機会が与えられる。

✓ 短期記憶力を鍛錬するのに有効。この点、Gary Buck は、Assessing Listening (Cambridge University Press) の中で、こう指摘している。It requires good short-term memory as well as writing ability, and it seems fair to say that it is far more than a test of listening skills. (ディクテーションは、書く能力に加えて短期記憶力の良さを必要とするものであり、単なる聞き取り能力のテスト以上のものがあると言って差し支えあるまい)

✓ クラスのサイズに関係なく、個々人が外国語を直接練習できる。

✓ 教師自身の外国語能力と無関係に実施できる。

✓ 電話で伝言を聞き取るといった実際的なスキルを見につけるのに役立つ。

✓ ディクテーション能力は概ねその人の外国語能力の判定指標として使える。

参考文献

Oller, J. W. Foreign Language Testing, Part 2: Its Depth. ADFL Bulletin 23, no. 1 (Fall 1991): 5-13

Stansfield, C. W. (1985). "A History of Dictation in Foreign Language Teaching and Testing." The Modern Language Journal 69(2): 121-128

竹内理 (2001) 『より良い外国語学習法を求めて』 松柏社

Takeuchi, O. (1997). "Dictation: Is it really effective for language teaching?" Kansai University, Audio-Visual Education 20, pp. (1997)